

(平成 30 年 8 月試験研究業務月報)

試験研究課題：新品種育成に関する試験 系統比較試験第 11 群

研 究

煎茶用新品種育成に向け、製茶品質の評価を行いました

当所では、高品質な煎茶の生産に向けて、府オリジナル品種の育成を進めています。

新品種の候補として、宇治在来種 18 系統と、奨励品種「うじひかり」、「あさひ」等を母樹とした自然交雑実生^{※1}の中から選抜・育成した 4 系統の計 22 系統について官能検査による品質評価を行いました。官能検査の結果、全国でも京都府でも最も生産量の多い品種である「やぶきた」と比較して、味と香りが同程度かそれ以上の系統が 2 系統みられました。

今後、今年度を含めて 5 年間同様の品質評価を行い、有望系統の選抜を進め、茶商工業者や J A などの評価などを踏まえながら、品種登録に向けた現地適応性試験^{※2}を 2023 年から実施する予定です。

※1 自然交雑実生：人工交配によらず自然にできた種子を発芽させて得た植物体

※2 現地適応性試験：現地での生育特性や製茶品質を調査する



試験ほ場



摘採直前の新芽



官能検査による品質評価

外観（形状・色沢）と内質（香気・水色・滋味）の評価を官能検査によって行う